

報告事項 ウ

美術企画展示「収蔵品にみる三国志」の開催について

美術企画展示「収蔵品にみる三国志」の開催について、別紙のとおり報告します。

平成21年6月2日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

## 美術企画展示「収蔵品にみる三国志」の開催について

「三国志」は、2000年近くも昔の中国の出来事であるにも関わらず、小説や映画、マンガやゲームなどで多くの日本人に親しまれています。こうした日本人の三国志愛好は現代に限ったことではなく、江戸時代にも『三国志演義』の日本語訳である『通俗三国志』の再版が繰り返され、幕末には北斎の弟子の葛飾戴斗<sup>かつしかたいと</sup>が挿絵をつけた『絵本通俗三国志』が出て強い人気を博し、三国志の物語が広まりました。

本展示では、鳥取を代表する江戸時代の画家である、片山楊谷<sup>かたやまようこく</sup>や土方稻嶺<sup>ひじかたとうれい</sup>、島田元旦<sup>しまだげんたん</sup>らが描いた、三国志をテーマとする作品を中心に展示し、江戸時代に描かれた三国志の世界を紹介します。また、平成20年度に当館が収蔵した前田寛治の油彩画などを紹介する新収蔵品コーナーも併設します。

注：三国志：魏・呉・蜀の三国時代(220～280年)の歴史を記した史話

1 会期 平成21年6月20日(土)～7月20日(月・祝)

2 会場 鳥取県立博物館 第3特別展示室

3 展示内容 (全27点)

)三国志の受容と展開

三国志の物語が、中国から日本へ、そして日本国内でどのように受容されていったのか、『絵本通俗三国志』やパネルをもとに紹介します。

)描かれた人物と場面

多くの人物が登場し、長大なストーリーをもつ三国志のなかでも、江戸時代において好んで絵画化される人物と場面がありました。三国志の物語に沿って、登場人物や有名な場面を描いた作品を展示し、その内容について紹介します。

4 関連事業 6月27日(土)14時～

学芸員によるギャラリートーク